

一般書から専門書へと導く 知識拡張型図書館システムの 研究開発構想

川路崇博

●要約

こと地方都市において、大学は「地域の知」の圧縮と展開を行う「場」としての機能が求められる。稚内北星学園大学では市民講座、公開講座などで市民との連携を深める取り組みを行っているが、市民がより深く「学び」を求めたことを想定した場合、時間的・経済的な理由から、その実現は従来の学校形式での学びは困難が予想される。

そこで、まず図書に着目する。稚内市立図書館の蔵書を調査した結果、開架には一般書が多い。逆ピラミッド型人口分布にすでに突入している稚内市において、生涯学習の機会、そして知的探求の機会を提供するために、市立図書館にはないが大学には存在している図書への誘導手法を検討する。これまでインターネット検索による蔵書検索は実装されていたが、書籍タイトルや書籍基本情報だけではない検索、または図書推薦機構により、別な図書と広く深い知識に行き着けるための支援環境の構築を提案する。

●キーワード

図書館

生涯学習

学習支援環境

場